

TRAFFIC SCOPE

「TRAFFIC SCOPE」は交通参加者の行動観察を通じて、ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者に守るべきルールがあることを再認識してもらうための連載記事です。

交通参加者の行動を観察する

街を走る自転車利用者はヘルメットを着用しているか？

DATA 基礎情報

すべての自転車利用者に対し、ヘルメット着用が努力義務化

改正道路交通法の施行により、今年4月からすべての自転車利用者に乗車用ヘルメットの着用が努力義務となった。警察庁の資料によれば、2022年の全交通事故件数に占める自転車関連事故（第1・第2当事者※）の割合は23.3%で、2016年以降上昇傾向にある。自転車乗用中の交通事故死者数（2022年）を人身損傷部位

別にみると、頭部損傷が半数以上となっている。また、自転車乗用中の交通事故（2018～2022年の合計）においてヘルメットの非着用者の致死率（死傷者数に占める死者数の割合）は、着用者に比べて約2.1倍高い。自転車乗用中に事故に遭った際、被害を軽減するためにはヘルメットを着用し、頭部を守ることが重要といえる。今回は東京都内の2カ所で自転車利用者のヘルメット着用状況を観察した。

※第1当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。第2当事者は過失がより軽い者、過失が同程度の場合は被害がより大きいほうの当事者。

WATCHING 観察

男性のほうが女性に比べ着用している割合が高い

観察場所Aは東京都世田谷区内にある幹線道路。朝の1時間半に観察した自転車利用者（同乗幼児を除く）は448人（男性277人、女性171人）で、ヘルメットの着用率は12.7%（同乗幼児を含む着用率は17.7%）だった。職場や学校まで自転車で通勤・通学する人や駅の駐輪場に向かう人が多く、小学生の自転車利用者はいなかった。年齢層別の着用率は、成人・中高年層と中学生・高校生が他の年代に比べて高かった。観察場所Bは東京都江戸川区にあるスーパーや商店が立ち並ぶ生活道路。夕方1時間半に観察した自転車利用者（同乗幼児を除く）は694人（男性264人、女性430人）で、ヘルメット着用率は5.0%（同

乗幼児を含む着用率は7.8%）だった。年齢層別の着用率は、小学生が他の年代に比べて高く、成人の若年層および中高年層、高齢者で着用している人はわずかで、中学生・高校生はゼロだった。

観察場所Aの着用率が観察場所Bに比べて高いのは、マウンテンバイクなどスポーツタイプの自転車に乗る人が多いことが関係しているのではないと思われる。

着用者（同乗幼児を除く）の男女比は、観察場所Aが男性86.0%、女性14.0%、観察場所Bが男性77.8%、女性22.2%。また、男性の着用率は観察場所Aが17.7%、観察場所Bが9.5%。女性の着用率は観察場所Aが4.1%、観察場所Bが2.3%だった。観察場所A、Bともに、ヘルメットを着用している人は概ねあごひもを正しく締めていたが、中学生・高校生（観察場所A）ではあごひもが緩いケースや、締めていないケースがあった。



観察場所Aでヘルメットを着用していたのは職場まで自転車で通勤していると思われる人や仕事で自転車を使っている人だった

ADVICE アドバイス

ヘルメットの着用だけでなく、その他の交通ルールも守ってほしい

改正道路交通法の施行から2カ月も経過していないこともあり、大人のヘルメット着用率は高いとはいえない。観察場所A、Bともに、これまで着用が周知されてきたこどもの着用率は、大人に比べると高い。その一方で、同乗幼児にヘルメットを着用させている保護者も、そのほとんどはヘルメットを着用していなかった。こどもは心配だから着用させている

が、「自分は大人だから大丈夫」と油断をしていないだろうか。また、自転車で通勤・通学している人にとっては「荷物が増えるのがわずらわしい」「髪型が崩れる」といったデメリットを感じる人も少なくないだろう。しかし、万が一、事故や転倒した際に自分の頭部を守るためにもヘルメットを着用してほしい。今回の観察では信号無視やイヤホン、スマートフォンを使用する自転車利用者が散見された。ヘルメットの着用を心がけると同時に、交通ルールを守ることは安全運転や事故防止の大前提であることを忘れてはならない。

観察結果

観察場所A

東京都世田谷区 東急電鉄「三軒茶屋駅」付近
観察日/5月22日(月)
観察時間/7:30~9:00
天候/晴れ



観察場所Aは国道246号と世田谷通りが交わる交差点

●自転車利用者のヘルメット着用状況(人)

	幼児	小学生	中学生	成人 若年層	成人 中高年層	高齢者	合計	幼児を除く 合計
着用	28 90.3%	0 0.0%	6 15.8%	25 9.2%	26 20.0%	0 0.0%	85 17.7%	57 12.7%
非着用	3 9.7%	0 0.0%	32 84.2%	246 90.8%	104 80.0%	9 100.0%	394 82.3%	391 87.3%
合計	31	0	38	271	130	9	479	448

※幼児(6歳未満)、小学生(6~12歳)、中学生(13~18歳)、成人・若年層(19~39歳)、成人・中高年層(40~64歳)、高齢者(65歳以上)の判断は観察者の見解による。幼児はすべて同乗。



ヘッドフォンをしているため、ヘルメットを自転車のハンドルにかけたままにしている高校生



同乗する幼児にヘルメットを着用させているが、保護者自身はほとんどが着用していなかった

観察場所B

東京都江戸川区 東京メトロ「西葛西駅」付近
観察日/5月22日(月)
観察時間/16:00~17:30
天候/晴れ



観察場所Bは商業施設の駐輪場の前にある交差点

●自転車利用者のヘルメット着用状況(人)

	幼児	小学生	中学生	成人 若年層	成人 中高年層	高齢者	合計	幼児を除く 合計
着用	24 36.9%	26 29.9%	0 0.0%	1 0.4%	6 2.4%	2 6.7%	59 7.8%	35 5.0%
非着用	41 63.1%	61 70.1%	63 100.0%	262 99.6%	245 97.6%	28 93.3%	700 92.2%	659 95.0%
合計	65	87	63	263	251	30	759	694



スマートフォンで通話したり(写真左)、両耳にイヤホンをつけている(写真右)自転車利用者が散見された



観察場所Bでは、ヘルメットを着用して自転車に乗っている大人はわずかだった